

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークル小山（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		～ 2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士等の外部講師が定期的に来所し、専門的な視点から職員のスキル向上を図っている。	専門職の助言を受けながら、児童の発達課題に応じた支援方法や、保護者への関わり方について工夫を重ね、日々の支援に反映している。	児童の支援に関するミーティング等へ専門職が積極的に参加できる体制を整えるとともに、実態把握や支援に関する研修の機会を継続的に設けていく。
2	活動内容のバリエーションが豊かで、児童の発達状況や特性に応じた支援を行っている。	児童の発達状況や特性に合わせて、多職種の職員がそれぞれの専門的視点を活かしながら活動プログラムを組み立てている。	事業所内での取り組みにとどまらず、地域とも連携しながら支援の継続を図るとともに、現状に満足することなく、職員のスキルアップを進めていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員によって児童の状況確認や保護者への関わり方に差があり、保護者が十分に話を共有できていないと感じる場合がある。	フィードバックの時間を活用して情報共有を行っているものの、時間が限られていることや人員配置の状況により、十分な対応が難しい場合がある。また、職員の経験年数の違いによって対応にばらつきが生じている。	保護者対応やフィードバックの方法について職員間で共有し、可能な限り職員の理解や対応に差が生じないように工夫を行っていく。
2	利用児と地域との交流機会や、保護者同士の交流機会の企画・提供が十分ではない。	就労されている保護者も多く、交流の場を設定することが難しい状況があるため。	安全面に十分配慮しながら、近隣の公園等を活用し、少しずつ交流の機会を増やしていく。また、地域活動等の情報収集を行い、交流につながる取り組みを検討していく。
3			